

○ 参加者からの質問に対する東條先生からの回答

1	<p>知的に障害のある方々の支援において長野県はどのようなレベル？段階？のでしょうか。 (世界でも、国内でもいいですが)長野県が参考にするような先進的な取り組みがされているところはありますか。</p>
<p>難しいご質問で、どのようにお答えしたらよいかと思います。</p> <p>知的な障がいのある方々の支援において、最近「結婚や出産、育児」に関しての制限や反対が当たり前のように行われていたことが話題となっております。このことから、人として当たり前希望することが認められない社会であることは、まだまだ課題があるのだと思います。</p> <p>2006年に国連で採択された『障害者権利条約』を2016年に日本も批准し、2022年には日本の障害者支援がこの条約上保証されているか国連に報告し、国際的に評価されました。興味のある方は、インターネット等で調べて頂ければ、そのレベルや国際的評価を知ることが出来ると思います。</p>	
2	<p>今後、支援チーム作りに協力してもらいたい、助言をいただきたい場合、何処にどのように連絡していくとよいのでしょうか。まずは何からしていくとよいのでしょうか。(どこの圏域の支援センターでも協力していただけるものなのでしょうか)</p>
<p>長野県内の各圏域に障がい者総合相談センターや基幹相談センターがあります。このような相談支援センターの役割として、地域づくりや人材育成が挙げられていますので、お近くのセンターにご相談していくことが良いのではないかと思います。</p>	
3	<p>障がいを持つ子どもは養護学校に通う人も多いですが、本人を支えるチームの中で学校(教育)にはどのような役割が求められるのでしょうか。</p>
<p>障がいのあるなしに関わらず、学校での経験はとても大切な経験です。特に障がいのあるお子さんたちにとっては、その先の支援においてとても重要な時期ではないかと、大人になった方々の支援で感じる場合があります。例えば、「集団が苦手」と言っても、どのくらいの人数集団なら大丈夫なのか？部屋の大きさとの関係(一人一人の距離)は？あるいは、こういう状況ならお友達と一緒に過ごせますかなど…出来ることや可能性、苦手なこと等をアセスメントできる場だと思います。そういう情報を支援チームにたくさん発信できるのは、家以外で毎日関わっている先生方にしかできない事だと思います。学校は、ご本人が興味を持ったことや、体験したことをご本人の学びとして育ててくださる場と理解しています。そこでの実践を、チーム内に提供いただき関係者が本人理解を深め、関わりや支援の参考にさせていただけると、期待しております。</p>	

4	チーム作りを進める際にうまくいかない原因、つまづきやすい原因などはあるのでしょうか。
<p>チームの中心は「ご本人の想いや希望、こうありたいと思う将来の生活像」です。これを、家族や関係者が代弁しているつもりでいても、実は本人の想いでない場合もあります。</p> <p>自分もよく反省することですが、上手くいかない理由を本人の行動や言葉に求めるのではなく、その行動や言葉の意味に向き合わないでいる支援の現状を振り返ることだと思います。個人を責めるのではなく、みんなでご本人の想いや希望を改めて見つめることを意識していきたいと、反省することがよくあります。</p>	

5	大人になると進級や卒業など大きな節目がなくなり、なんとなく現状が続いてしまうことも少なくなかないような気がします。成人した方々への支援に携わる際に、どんな視点を持っているとよいのでしょうか。
<p>そうですね、これでよいだろうと思っていたことも、時間の経過の中で錆びついたり、飽きたり、新たな希望が生まれていることに気づかなかったり… 人は時代や社会の中で変わることって普通ですよ。あるいは、何も情報を受け取れなかったら、時代の流れの中で取り残されてしまいますね。そう思うと、情報をお伝えすることや、どうですか？とお聞きすることは、とても大事だと思います。そういうことにアクセスしにくい障がいのある方々に、いかに自分たちが配慮できているかと意識する視点は大事と思います。</p>	